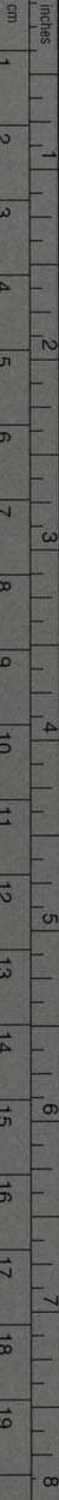


新版

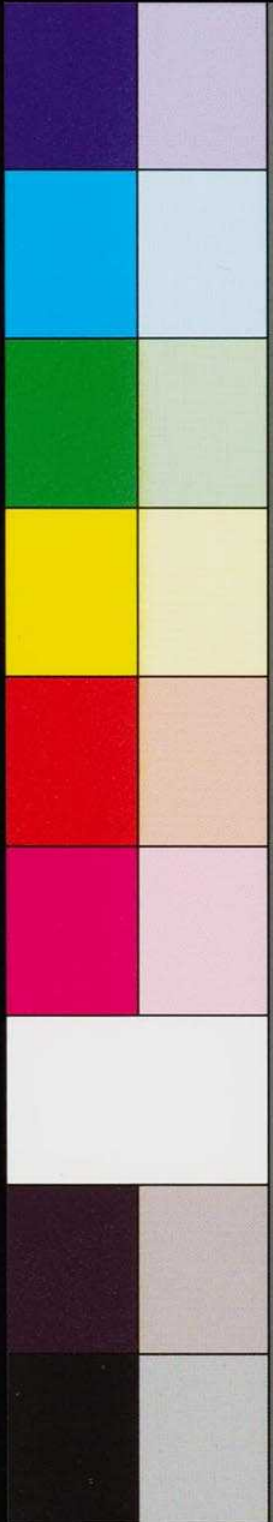
假名安驥集

卷之一



Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



假名安驥集 卷第一・二

麻布大学所蔵



假名安騏集方序

骨相 詔置宣德殿下周

初得突厥馬一千疋又得

隋馬三千疋於赤岸澤及

貞觀後馬七万疋置八坊

八坊之馬為四十八監由

是有監牧牝群牧閑廐等

使自張萬歲失職馬政遂
廢及玉毛仲領職馬稍復
始二十四萬至十三年乃
四十三方天寶以後諸軍
戰馬動以萬計議者謂秦
漢以來唐為最多豈非息
耗雖因時而尤在牧養得

其法與國家乘前宋亂
亡之後當黎元塗炭之餘
披榛棘而洗瘡痍拯水火
而屏豺虎安民和衆不得
已而用兵強兵之本以騎
為先故遣官市馬於隴右
網維繼至馬數漸廣尚慮

孳育之末蕃詔修馬政始
命有司看詳司牧安騏集
方開印以廣其傳庶幾市
者驗此以知駑驥醫者考
此以用灌鍼牧者觀此以
適其水草之齊故執之宜
如此則司馬之法不獨稱

於周官而牧監之牧之多
匪專美於有唐也今修寫
到板樣繳呈
省尋具奏稟取
詳酌降下開印施行本

進止奉
齊音並依

假名安驥集序

本朝平仲國以來馬書唯
多矣代々相傳傳藤氏仲
經仲總傳道蝸々傳至于
余々按斯書多虚少實鄙
拙雖素智狹劣閱馬師皇
安驥集靈方鑿術其妙難

測矣於茲暇日獲本朝之
馬書及師皇刊本畧未詳
者擇其尤者校訂訛舛交
假名增損雖擇未精採未
廣奉勅撰而摠為十二
卷壽諸梓號假名安驥集
其意一者為愚蒙者一者

所以公天下之斯書也故
不顧達人之嘲哂與之於
所求之童習之去度幾後
覽之人改其訛謬補其遺
闕不亦宜乎慶長九年
八月望道孤叟謹自序

假名安騏集卷第一

黃帝八十一問并序

蓋聞天地之間人倫之內

有地土六畜者可以樹藝

五穀是民之生涯也又曰

務滋稼穡者全賴耕牛之

力平戎定寇者莫非戰馬

海

之功此之謂也既養其六
畜須伺察其飢渴疲困疾
患若有其疾患者須憑鍼
藥治療也昔者黃帝在位
帝基永祚自破蚩尤已後
四海咸服黎庶康寧薄稅
歛而深耕易耨也茲者是

德化之治也以感動天地
神明者矣後主八月十五
日夜風清月朗露泣烟輕
有醫獸六人者乃是聖賢
聚會之際也傳孟賞月之
次迺相議論唯少八十一問
數內有馬師皇者避席而

每序

起焚香御祝上蒼玉帝遙
知郎云有馬師皇處世救
萬民六畜遂差天丁使者
於白玉蓮華櫃內取出八
十一問玉帝又遣一仙童
齎此書直至下方令付與
師皇仙童奉勅得書直至

下方化作一人謁見師
皇道話次將八十一問付
與師皇師皇見此書踊躍
大喜拜謝次仙人失其所
在此書乃世之寶也既得
此真方藥餌遂依方修合
療其六畜之患無不神效

也看口色而察其病源聽
喘息而知其休廢內曉五
臟六腑外觀四季五行解
陰陽知其生死識運氣斷
其吉凶炮燻按法鍼烙從
穴乃究根源深窮造化之
理也今有後學之流不識

文墨不曉經書妄為穿鑿
施鍼用藥謾設其功一生
而九死所悞及多今將秘
本燭下再三披閱子細詳
之撮其樞要者矣

假名安驥集卷第一

黃帝八十一問

黃帝問於馬師皇曰有八十一問所斷何也師
皇答

○一問肝冷者何也

出氣不聞本臟虛

冷物傷之與上居

被風吹怕項連扶

鼻頭鍼破血流甦

○二問心冷者八心臟ノ冷逆ナリ鼻水ノ如クナ

ル者ハナソヤ

肝冷冷淚恰如珠

皆因汗出生此患

毛焦更兼水草慢

傳送謔身爐火燿

安老卷之一
歌ニ曰心冷ハ唇タレテ清水ヲハキロハ衰リノ如
シ急ニ須ク治スヘシ立テ後肉ウコヒテ四蹄ヲモム
即テ後増寒シテアエテタハス便千孫陽カ暖心散
ヲ用ユ此藥世ノ中ニタクヒナカルヘシ

○三問肺冷ノ者ハ鼻ヨリスハハナラタラシ水草ヲク
ラハス藥ヲ用テ是ヲ治ス

歌ニ曰肺冷ハ鼻中ヨリスハハナイテ毛焦レシハム
ラヒクメキ攢蹄シテ立ツ口鼻白色ニシテ冬凌ノ
コトレ時ニラサカリツ口寒クシテム子ニサカ上ル先
濕藥ヲカヒ火鍼ヲ用ユ妙藥神功人ニラス

○四問腎冷ノ者ハ何ソヤ

歌曰腎冷ハ腰ヲ取テ又肝ヲヒクアトエタ虚腫レ
テ四蹄モム兩ノモ、ヲ浸ス卧後ニ筋ヒキ脚カ、ニ
ル火鍼ハ道水海穴臟ヲアタハムハ四躰ヤスレ

○五問脾冷ノ者ハナニソヤ冷物ヲ食フニヨツテ胃
口ニ傳ヘ毛焦慢草ス藥ヲ用テ可治之

歌曰レキリニ瀉スレハ臟ト、ノヲラス脾冷シテ胃
ノ氣ノ毒潮ノコトクニ來ル大小腸中雷ノ鳴カコ
トシ草ヲクラフテ消スル事アタハス毒氣頻リニトラ
ケテ日々ニ焦レ日々ニヤセテ又毛焦ル

○六問肝ノ傷熱ノ者ハ眼赤ク眩渡シテマケ出ツ
藥ヲ用テ治之

歌曰肝熱ハ眼赤クシフリテハリ難シ翳サヘキツテ
目ノ内ニ瘡ヲ生ス時々ヒイラキイタニテコラヘ難キ
コトアリ朝々ヒラキヒラスヒテ人ヲラツル先點シ後
瀧シテ洗肝散ヲカフ兩自分明大陽ノコトシ

○七問心熱ノ者ハ何ツヤ

歌曰ハ熱舌赤キコト火ノ如シ蒲口ニ瘡生シテ
粘キ涎レヲハク其時水草慢也瘡イタミ涎レマト
ハリ咽タヘカタシ要較除非黑散子更ニ油蜜ヲ
以テ白礬ヲ煉用ユ

○八問肺熱瘡壅毒ヲ生ス外ハ侯骨鼻中ニ傳ヘ

テ膿出ツ啞聲喘息アラキ者以テ治之
歌曰肺熱ハシキリニ啞テ喘息イツカワレ鼻中ノ
膿血消スルコトヲ要スノトホ子大ナル時食槽ハレ
名ニカレヤ世弱クシテ病アタリカタシ

○九問腎熱ノ者ハ何ツヤ答曰腎熱ハ甲脊ニ瘡

ヲ生シ背毛又落ツ藥ヲ用テ可治之
歌曰腎熱毒氣腰背ニ傳ウ甲脊ニ瘡ヲ生シ又
毛落ツ皮肉膿血瘡一片ナマクサキニホヒ人ニク
ンシテ實ニチカツキカタシ便チ師皇解毒散ヲ用ヒ
ヨ萬病モ又スヘカラク潰ズヘシ

○十問脾熱ノ者ハ外唇ニ傳ヘ口瘡ヲ生ス治之

歌曰脾熱ハ瘡ヲ生ス外唇ニアリ皆毛ギチ喘息

シ更便チ黒キ處ニ卧ス目クルメキ唇色精神損
ス要較油蜜消黃散ニテ上ニ不避シテ即安身

○十一問肝傷水ノ者ハ冷氣眼目クツコナヒヒラ
カス毛コカレ肉ヒクメク可治之

歌曰肝家傷水口鼻ヲシ出ル氣入ル氣ヒヘテ
氷ノ如シ毛コカレヤ世弱シテ眼ヒラカス冷氣セメ

テム子ヲ上ニト、コラル臟ニ上ル時胃口ニ和ス々
ツ子思ニ内ニ發シテ外ニ明テリコレハ肝ノ傷水ヨ

ク根源ヲシルヘシニタリニスル事ナカレ

○十二問心傷水ノ者ノハ臟冷逆シ鼻冬凌ノコ
トク兩膊肉ヒクメク可治之

歌曰心家ノ傷水ハ口鼻冷攢蹄肉ヒクメキ兩

膊慄ス胸前肉動ヒテ又毛焦ル増寒慄森コノ

ニテ日影ニムカウコレハ本是心ノ傷水

○十三問肺傷水ノ者ノハ鼻ヨリ清水ヲ出ス事シ
キリナリ毛コカレ肉ヒクメク可治之

歌曰肺家ノ傷水ハ鼻中シタ、ル毛焦肉ヒクメ

キテシキリニシツクタル口鼻白色冬凌ニ、タリ下

クチヒル哆呵シテ頭ヲタレテ立ツ冷氣ム子ニソ、ク

又是膈内冷ユ

○十四問腎傷水ノ者ノハ冷氣吼聲アリ頭耳ヲ
タレテ肉ヒクメク可治之

歌曰腎家ノ傷水ハ兩耳タル惣身肉ヒクメキ又
頭ヲタル口鼻磣澁シテ出ル氣ヒユ卧テ後盤身
更ニ屈ルコト遲シコレハ本腎ノ傷水ニヨル其力
タチヲ知ルコト是名醫也

○十五問脾傷水ノ者ノハ冷氣胃口ニ傳ヘ内ヒ
クメキ增寒シテ水草ヲクラハサル者藥ヲ用ヒテ治
之
歌曰脾寒傷水更ニ增寒スニクヒクメキテ惣身
一團ノコトニイキ出ル時口鼻ヒヘ四エタアツツ
テ身ヲスクム病ノ形カスヲ、シ方ニシタカツテ藥ヲ
用ヒヨコレハ本是脾ノ傷水ナリ

○十六問孳畜内障ノ眼幾クカアル内障ノ者ノハ
一十六アリ五臟ニ生スル處可治之

歌曰内障從來十六ニナ一黠水上ノ盤ノコト
キニヨニ陽裏ニツクトキ日月ニ應ス陰中ニミヘテ
後左邊ユルシ陰中ニ一タヒギ、ヘハ雲中ニ去ル
朗月アキラカニ遠天ヲミル

○十七問孳畜頻々ニクタル者ハ胃口ノ冷熱相
ツキ毒氣聲ヲナシニキリニクタル也

歌曰頻々涕洟臍ト、ノハス脾ヒヘ胃氣ニ毒ムカ
ヒアツマル大小腸中雷ノナルカ如シ草ヲクフヘ共
ヨク消ス日ニ焦シ日日ニ瘦テ又毛コカル桂

心豈菴散ヲ用ヒハ愈ルコトヲ見シ

○十八問六畜脹疫者ノハ五臟ノ壅毒積熱逆氣奔腸五穀ノ脹疫治之

歌曰五穀脹疫病傳フ亦聲喫ヒ早頻ニ空初

ハ心肺ニ毒熱ヲ生シ外ニハ鼻内口中ニ瘡ヲ生

ス眼アカキハ肝壅多クナシタリ頻リニ顫シテ臍

臍ノ氣腸ニ通ス解毒ヲ先ニシテ調治セヨ

○十九問六畜糞頭カタキモノハ壅毒腸中ニ宿ス

鞣不消不化ナリ藥ヲ用可治之

歌曰五藏ノ壅毒腸中カタシ熱サカニ積聚而

此病生ス大小腸中不消化日夜糞ヲナケウツ

事鐵ノニルカレノコトニモ焦ヤセヨハクシテ又ツツ

ク慢草ツツカレヤセ精神ニタル要較脂硝臟中貯

毒糞硬ヲ取テ病消散ス

○二十問孳畜生駒悪キモノ腹中ニ有テ尿血水

又小腸ノ惡物何ヲ以テカ治セン

歌曰落胎惡物子腸ニアリ腹脹コシニアツテ小

便シケレム子イタニ時時ニモタユル事日々ニマシテ

命亡ヘレハヤク敗毒散ヲ用ヨ地龍臍粉尤ヨレ

トス當歸沒藥治スヘキニタヘタリ騏驎甘草骨

○二十一問心肺黃ノ者ハ病内ニ生シ壅毒腹

碎ヲ用ユ

中ニ疼痛ニ兩眼ミヘカタク醉狗ニ似リ何ヲ以力
治之

歌曰心肺黃病ハ積熱ヲ醫ス眼前ニ花發シテ
東西ヲ見ル地ニ立ルトキ醉狗ノコトニ卧テ四ノ
エタヲアツム腹中イタミ雷ノナルカ如シ痛ム時汗
出ルゴト泥ノコトニ連嚙ニ服敗毒散

○二十二問慢腸黃病ノ者ノ八宿草第四盤中
ニアツム病成テ内ニ疼痛ヲツカセトル消セス糞頭
緊硬ナリタチマチ起タチマチ卧ス用藥治之
歌曰起卧慢腸黃ヲレラント要セ八宿草困水
大小腸三朝兩日レキリニ輓顫レ糞ナケウキ水

二隨テ堅シ一陣イタム時腰脊ニ和ス一回イカ
テ後却テハル急ニ藥ヲ嚙過シテ交蕩セヨ

○二十三問慢肺黃病ノ者ノ八宿草不消是困
水ニ臟ニ納テ此ノヤマイヲ生スル也

歌曰起卧シンスヘシ慢肺黃左右ニヌクリヌクツ
テ膝堂ヲミル地ニ立鎮腰ニ後脚ヲヒクシハハウ
ミテ亞身焦磨セス糞抛テ脂硬ニ亦覺フ便チ
脂ヲ用テ藥ニ和スルコトヲ又日ニ多ク脹ヲ生ス

○二十四問肝暈病ハ肝家ヲサカル積聚ノ毒氣
膈前ニ上リツキ迷悶疼痛シテ兩眼ミヘス遍身
ニ汗有テト、ニラスニテハレル又急ニ起卧ス以藥

治之

歌曰肝暈起即精神少辨ス壅毒兩眼人ヲミス
カキニアイ穴ニ入ル遍身毛焦レテマセシタハル肝
熱心ツツキ胃門ニワク新水カヒラニツクキテ涼
藥解ス

○二十五問鎖腰風ノ者八汨腰膝四肢ニ拍著
シテ恰モ筋斷塔ノ如シ眼精遍身肉顫ス治之
歌曰クスニ鎖腰風シヒラント要セハ腰哆行カク
ク醉狗ニ同シ立カタクシテウシロアレシヒク腰鳴ル
處形イタム發スル時肉ヒクメキ頭カタレ晴眼ヲヒ
ルカヘレテ白キヒトミララハス盲醫ハヒラス却テイ

ウ廢療鬼神風

○二十六問四柱風トハ客風四肢ニ透入シテ虚
腫シカナシ起カタク即カタシ藥ヲ用テ治之
歌曰前脚コハミ定メアト脚坐ニス起ントレテギキス
又却テフス醫人ハヒラス四柱風錢ヲ燒テ馬ヲ
奏シラサワイシラニヌカル各敗毒ニヨリヨク鐵治ス
下藥尅日須安可

○二十七問癰瘰風者賊風四肢ノ内ニ透入シ
臟腑ヲセメ四腦チカラナキコト恰筋斷力如シ起
即無因此病療シ難シ何ヲ以テカ治之
歌曰孳畜病癰瘰風邪風敗氣腰中ニトサス

脾ヨリ胃ニ傳テ逆シテ會ニアツル腎筋管ヲ
 閉テ四肢ヲセム蹄脚力ナキ事スチ斷ルカ如シ地
 ニ卧テ行カタクスクウニ功ナレコノ形ノ如シハ藥ヲ
 下スコトヲ依ヨ日ヨニ深シテ必命空ニカヘル
 ○二十八問臍風トハ賊風臍内ニ透リテ五臟六
 府ニ傳ウ外ハ蒲身ニ傳テ眼目ヒルカヘリ平關ク
 イセタ△藥ヲ用テ治之

歌曰臍風ハ口ヲトサス片時ノアイタ初ノトキ先
 是牙關ヲトシ渾身變硬兩耳スクムカタカタノ晴
 ミハリ更ニヒルカヘル三日傳來鬚唇詐ハル五朝
 必定テ痰涎ヲハク亦火鍼ヲ下シテ藥ヲ用ユヘシ

○二十九問肝ノ氣痛ハ肝ノ臟ニ上衝シテ腹中
 イタミ外ニ傳テ眼赤キ時擁注悶シテ口ヲハリ啞
 喘スルナリ

歌曰肝家ノ氣痛キキフシモノウク擁毒注悶口
 張テ喘ス两眼アカク把頭秤眼ヲ開テ人ヲミル
 事閃電ノコトニ腹中ノ積聚逆氣アツル内生
 外傳來往反ス本是臟中同ク共ニエタリ要較
 ハヤク七星散ヲ用イヨ

○三十問心ノ氣痛者積聚擁毒注悶ニ内ニ疼
 痛ヲ生シ外ニ餘汗アリテ喘啞急也
 歌曰心家ノ氣痛起卧イソカハシ口内花ノ如ニ

シテ舌上紅ナリ起卧前スコシク汗ス喘息注
悶逆氣ツク便千王良カ止痛散ヲ用ユヒトヘニヨ
ク毒ヲヤフリ心中ヲ治ス

○三十一問肺ノ氣痛ハ飽上ノ行急困草不消
内ニ疼痛ヲ生シ貌モタヘ喘アラクテ遍身汗出ツ
用藥治之

歌曰肺家ノ氣イタムハ刀梨ノコトシ起卧肉ヒ
クメキテ汗微々タリ口鼻白色ニシテイキアラシ左
右頭ヲ揺シ肚皮ヒクメク急ニ妙藥ヲ用ヒ本穴
ニハリス時ニアタツテ病輕シクイユヘシ

○三十二問腎ノ氣痛者宿水草不消化小腸
疼痛シテ起卧スル也

歌曰腎家氣痛又コシニ傳フミナ宿水ニヨツテ
治スル事アタワス小腸疼痛コラヘカタシ腰疼起
卧受テ寥ナルコトナシセナカヲメクル毒氣雷ノナル
カ如シ卧テノキ拳脚シナシソコシヲノヘン止痛散
下シテ功勞アリ

○三十三問脾ノ氣痛ム者ハ冷脾胃ヲ傷リテ内
ニ疼痛ヲ生シ逆氣心ヲツク也

歌曰脾家ノ氣痛ハ起卧イソカハシ腹中ノイタニ
刀ニテキルカ如シ腰ヲノヘテ不動甚々當リカタニ
桂心荳蔻散痛ヲ減シソサワイヲマメカル

○三十四問大小腸ノ冷痛者腸中雷ノ如ニナ
リ内ニイタミヲ生シ逆氣相ツク治之可也

歌曰大小腸中冷氣ムカウ皆ヒヘアカルニヨツテ
病相ヲカスヲキフニイタムトキニキリニ輓顫ス腸中
ニ聲ヲナスコトカミナリノ鳴ニ似リスナハチ止痛檳
榔散ヲ用イヨ此病安寧ナリ

○三十五問臟腑ノ冷者口中二痰水ヲハキ漸ク
ヤセヨハシ可治之

歌曰久クヤミ諸臟ヒヘ來テヲカス口中痰水アリ
テ舌ソコニ沉ム發スル時肉ヒクヌキ惣身動クヤセ
ヨハクシテ病ウタ、深シ桂心附子良薑散コノ病

ヨク推タツ子ヨ

○三十六問眼中冷淚四肢クルシムハ冷脾ニ傳
ヘ四肢力ナク眼中冷淚ス用藥治之

歌曰肝冷脾ニ傳ヘナンタ連々タリ頭ヲタシ偏ニ
變ス日陽ノ前卧而後弯頭背扎地行トキカラ
ナク四肢ナユ洗肝温脾散ヲ用イヨ此ノ藥ノシル
シアタイ千錢

○三十七問膝顫トハ脾腎ヒヘ腸胃ヤム用藥治
之

歌曰膝顫脾腎ヒヘ來テヲカス起卧腸中痛ウ
タ、深シ曉水ヲ以テ面ニヒタス又煎病イタミタヘ

カタニ厚朴カウホク官桂クワンキ縮砂シュウサ散酒サンシウ下ノ時ヨロコヒタヘス
○三十八問小腸ノ秘澁ヒシツ毛コカレ皮黄カキニシテ時々
疼痛トウツウス用藥治之

歌曰小腸ノ尿チヤウイシブルハ小腸ノ傷瀝ヤシレキトシテ便ス
ル時金色ノ如クニ黄ナリイタミテ弱クツカレシキリ
ニ卧ス遍身皮毛精光没ス芍藥桂皮ニ附子
三トキ灌下シテ便チヤスシ

○三十九問脾風トハ急水脾ヲ傷リハシツテ聲ヲ
ナス後脚踢前膊用藥可治之
歌曰畜患脾風ト、マラスシテ走ルニキリニ聲ヲナ
シ人ヲ驚ヲトロカシテナクツナキサタムレトモ椿ヲヌクツテ來

往ニシテテニス後脚往ウシロ前踢マヘ膊口火ウチ鍼脾胃藥ヲ
用テクス、時ニアタツテレルニアリ人皆ヨロコフ

○四十問心風黃者血チツク心ウチヲツキテスタクコト
ト、マラス聲ヲナシテハシル可治之

歌曰心肺黃病ハシリ來キタルコトニキリナリスタク聲々
カウシテ四隣シリンヲ驚ス眼昏カクセ三角人ニラウテツク見
ルモノスヘテ云ウ曾カクテキカスト各醫便チヤク天門
宛タカ時ニアタツテイタカシヒ一タカシヒ鬼タカシヒカヘスニ似リ

○四十一問日夜ニ聲ヲナスコトト、マラス呼吸コウツクス
ル者ハ肝膽ノ内ニ黄アリトス呼コソテ寶養富トナス
也

歌曰肝膽二黃有テ吟嘍ノ聲ス臟腑ノ中ニ貴
物アリ養生必定家道サカユ醫人ハレラス胡亂
ニイフ休立病狀ニタリニ施レ呈ス

○四十二問五臟ノ傷熱ハ膈上ノ擁毒口瘡ヲ
生スヨタシアラワラハキ毛焦慢草也ケカシメシ用藥治之

歌曰傷熱毛コカレテ五臟ニツタウ口舌トモニ赤
ク子ハキヨタシラハク啞聲注悶水草ニタリナリ痛
△カサノントニ生シテヨタシニマトハルナリ要較除
非黑藥子油蜜ヲ以テ白礬ヲ煉

○四十三問饒汗イツルハ五臟ノ積熱多シ口中
燥悶用藥治之

歌曰五臟ノ積熱多シ饒汗六腑ニ相傳テカハヒ
熱シミタル藏府不和シテ悶多シツカサトル毛焦
テ水草微ナリ日々ニフカク病成テ災難ヲナス證
ニタイレテ涼藥解毒散ヲカフ自然ニ安樂ニシテ
身カロクヌコヤカナリ

○四十四問肺ノ邪牽ハ客風外ヨリ入テ臍ニツタ
ヘテイタム用藥治之

歌曰項曲頭脛ヒクメキ彎ス偏風病ヲナス是根
元風スチヲヌイテ外面ニ傳ウ時ニ呼テ肺邪牽ト
ナス此ヤアイ肺風ニ葉ヲトサス外頭上ニ傳ヘテ
病モユルコトニ用藥表臍藏府ニ還ス鍼烙項ノ

兩邊ニアリ

○四十五問肺把膊飽上肺ニツキテ頭疼痛ス慢草シテ行カタシ可治之

歌曰肺把膊ノトキ飽上ニエタリ肺頭疼痛シ前ニ向テハヤシ四脚攢スル時キヒシク去撮ス毛焦シ慢草シ又シキリニ啞ス滿身皮肉繩束ノコトシ用藥火鐵膊兩相毒氣消散ス是良畜

○四十六問肝肺黃者二臟ノ熱サカンニシテイタニ喘息シ汗アリ可治之

歌曰肺肝黃病眼クラムヘシツナヒテアルトキウタ、來ルコトシキリ也鼻咋ニスタク時アラキイキ出ツ

微々タル汗惣身ニアルヘシ此病ヒ三朝通シテ治療ス日々ニフカクウクシハ命存シカタシ

○四十七問口鼻ヨリ糞出ルハ飽上シテ△子ニツキ脾胃上逆シ相ツクヨシテ水草翻トス日々ニアサシ通シテ醫ス

歌曰口鼻ヨリ糞ヲハクハ水草翻トス△子脾胃ニツキタ、カフ眼合シ耳タシテ草ヲクラハス日々ニ焦シ日々ニヤセテ安キコトアタハス或ハ腹フクシ或消シテ糞ヲハキ出ス五臟ノ毒時ニ逆氣ニシテツタウ日々ニアサキハ可治日々ニフカキハ病イヘカタシ

○四十八問シキリニ啞聲哽ハ飽上ニヨツテ行コト

急ニシテ前脚ウツリカタシ可治之

歌曰日夜問空水草慢更ニ哽氣ヲフヘ頻ニ聲

ヨハウ前脚ウツリカタクフストキミラルイス要較甲

膊火鍼治ス消黃肺ヲ治シテ此ヤマヒヲ醫ス

○四十九問慢草ヤセヨハキハ傷重五攢内ニ衝

着ス疼痛ヲ生シテ毛コカル宜治之

歌曰朝々水草泥ヲクラウニ似リ日々皮膚ヤセテ

又ツカルホ子ヤセ柴ノ如一シテ行歩ヨハシ四肢力

ナクシテ項筋タル日又クシテクク聲哽氣ヲキク肋

肢肺貼ヤマヒ醫シカタシ

○五十問傷重フキスタクハ着熱心肺ニツイテ注

悶シイタシテ外ノホ子ニ傳ウ鼻中ヨリクミ出

テ又慢草ス可治之

歌曰熱心肺ヲ傷リ又シキリニフク鼻ノ中ヨリ膿

出喘スルコトイワカハシ毛焦ヤセヨハクシテ水草

慢ス立トキ行歩風ニラキタホサ九卧シテ後眼合

シテ精光スクナシ用藥急ニ鍼治セヨ日日深ク

肺脹シテ命亡フヘシ

○五十一問傷重心肺ニツクハ巳ニトノヘ治シ

カタシ擁毒シテ水草ヲ食セス

歌曰傷重行急ニシテ心肺ヲ損ス鼻ノ内ウミ流

テトキニ地ニフスカタカタノ眼赤シテ物ヲ不見惣

身ヒクメキテ醉ルカ如シ五攢疼痛シテ草クシラヒカ
夕シ榮胃ノ間氣トツヘシカクノ如キノカタチハ藥モ
醫スルコトヲヤメヨトヒ妙手ト云トモ治シカタカ
ルヘシ

○五十二問傷重膿血ヲ瀉シ臟腑ニツキ着シ擁
毒慢草シテヤセヨハシ可シ治之

歌曰飽上ノ傷重サラニ熱スアサナアサナフクシキ
クニウミ血ヲ瀉ス慢草ヤセ弱クシテ漸クツカル骨
ヤセ柴ノ如クシテ力ナシ起卧ノ時アヘテ休セス此
病皆是熱ナリ主人藥ヲヘンスヘシミタリニ藥ヲ
下サハ時ニ神水ロヒン

○五十三問腸中即チ膿血ヲ瀉ス擁毒疼痛シテ
氣脉不順可シ治之

歌曰傷熱腸中ウミ血ツク臟腑ノ壅毒胃ノ氣
ヲセム臍ノ下イタム時刀ニテサシカ如ク一回疼テ
後心中ニ奔ル日々ニ漸クヤセ來テ筋ホ子アラハル
耳慢ニ頭ヲタレテセナカ弓ニ似リ病ヲレリ先ツ敗
毒散ヲ下シテ然シテ後ニ氣通スヘシ

○五十四問即瀉スル者ノハ水ニクルシム腸中ノ
宿草消ス逆氣相セメ頻リニ水クタル宜シ治之
歌曰困水即瀉シテヤスカラス胃氣雷ノ如クニナ
リ日々ニ深クヤセヤク瘦テ柴ニアヒニタリセナカ刀

ノハノ如ニレテ脚ヲ動セハタラシトシ行コト無力
即トキ起カタレ只ハ宛ノ穴ヲ鍼治スヘシ藏府ヲ
補フテ安キコトヲ得ル

五十五問冷水五臟ヲヤフリ胃ノ氣不和シテ
腹中雷ノ如ニナリキリニ御水ス何ヲ以テカ治
之

歌曰御水朝々流津ニ似リ腸中雷ノ如ニナルヒ
ナルコトニキリナリ脾腎冷ヘキタツテ胃氣逆ス大

小腸中センセンニイタム兩脇ヒクメク時水草慢
ナリツカレヤセヨハクシテ精神ヲ没ス要較鍼槽藏

府ヲ治ス腎棚鍼シ了テ雲門ニ及フ

○五十六問敗水逆行シテ五藏ギサハラス外臍ニ
トラル可治之

歌曰困水荒外ホツニハレリ來ル敗水逆シメクツ
テハラニミツ榮衛トチフサカツテ血脈トコラル頭

ヲタレ肉ヒクメキテ脾モタケカタシ醫人若ヨクコノ
病ヲシラハ先脾胃ヲトノヘテ藥ヲ安排セヨサラ

ニ解毒ヲ用ヒ本穴ニ鍼ス

○五十七問宿水荒外宿水ギサマラセルハ逆氣
心内ヲセメ疼痛ヲ生シテ荒外ニ傳ウ可治之

歌曰宿水荒外吐ニトホツテ漫ス腹中イタシテ
刃ニテキルカコトニ痛ミ卧シ肉ヒクメキテ腹ヲクル

ハコトヲナスイタニ腰脊ニ連ツテ急ニヒキカハマルヤ
マヒヲ知テ用藥敗余水シラス却テイフ脾胃ノ寒
ト三日已前通シテ治療セヨ五朝已後命ギハル
ヘシ

○五十八問敗水横腸之カレテ藏府疼痛ス藥
ヲ用テ治之

歌曰敗水荒外横腸ヲメクル臟腑イタニテ刀ニ
テヤフルカ如シ或ハハ消シテ又却テ下ル朝々
慢草精光ヲ没ス傳ヘ來テ肉顫キ哽氣ヲ添ウ
兩肋氣刺テ心クルウニ似リ各醫ハ毒ヲ去リ宿
水ヲ除ク知ラスシテミタリニ嚙ハ命立フヘシ

○五十九問食槽血結ハ心臟ノ熱擁外食槽ニ
傳フタニカニ治之

歌曰血結食槽食裏ニ生ス毒傳ヘトリアツメテ
長ク來リ成ヌ上下ノ根苗臟腑ニツタウ食槽裏
面結シテ精トナル腫破シテノト骨ノ大ナルニ連ナ
ル鼻中ヨリウミ出テ、自然ニ清ニ喉ヲ開キ用藥
能醫治ス後學ノタクヒ亂リニ呈スル事ナカレ

○六十問草結ハ肺中ノ擁毒外食槽ニツタヘテウ
ミアリ可治之

歌曰草結ハ元胎内ヨリキタル腸中ニ結アリ食
槽生スル時筋肉アツマルアタカ胡桃ノ累々トシテ

排ル方如シ發スル時臟腑レキリニフキスタク急ニ
クスレテヨニテ結シトリヒラケ手奔ノ時ナラ小ニ可
ナラン又峨眉ヲカサハ恐クハワサワイアラニ

○六十一問食槽ノ擁毒氣結シテ喉ホ子々カキ者
用藥治之

歌曰食槽ノ草結ニツノレナアリ就中氣結シテ
脂膜ニトウノントヲサレハサニテ食槽ノ喉ホ子ハル
鼻中ヨリ膿出テレキリニ啞喘ス往來出氣肝ニ
ハレラントス各醫ハ喉ヲ開テ能結ヲ取ルヤフクス
ニハレラスレテ亂リニ言ウ也

○六十二問毛焦ハ五臟ノ積熱血脈擁シテ乃チ

毛焦ル、也可治之

歌曰三焦不治他ノ熱ニヤフラル五藏擁毒氣
脉結ス榮衛閉フサカツテ來往悶ス醫セスハ多
日瘡癩ヲ生セン油蜜消黃散ヲアタヘヨ身上ノ
毛ヒカリ有テ精神ウルハシ

○六十三問口中ノ涎水冷熱ノタメニ相せメ羅
隔ノ上ニ結ス蛔虫落架心頭痰水也

歌曰口中ヨリ白キアワ子ハキヨタレヲハク也落架
蛔虫肺痰ト呼フ冷熱相せメテム子ニアツマルレキ
リニ咳逆シテ更ニ心煩ス白礬ヲハノココムキノコ
蜜ヲ用ユ立トコロニ効アリ黑神丹

○六十四問 一種脾寒者ハ肉ヒクメキ疼痛シ兩
眼橫照シ、キリニ點頭スタレカニ以藥治之

歌曰 一種脾寒又肝ニツタウ點頭肉ヒクメキテ
耳カタカタヒク遍身疼痛シ雖ニテ刺カ如シ筋骨
イタミテヤイハノキルカ如シ發汗要較温風散四
肢カロクコ、ロヨクシテ便チヤスレ

○六十五問 二種脾寒ハ噤森肉ヒクメキ腸痛テ
口色白シ可治之

歌曰 二種ノ脾寒ハ冷心ニトラル牙ヲカミ噤森
シ顫シテニヨウ小腸疼痛シ顫リニフス口色白ク
黃ニシテ淡金ニ似リ風藥解毒先ツ汗ヲ出ス本

穴ニスヘカラク火鍼ヲ用ヘレ

○六十六問 二種脾寒肉ヒクメクハ鼻中ニリ水イ
テ太腸イタム腹内雷ノ如ニナリテモ、ク氣ヲ下ス
ナリ

歌曰 二種ノ脾寒又肺ニツタウ毛コカレ肉ヒクメ
キテ鼻涕シカヌ太腸疼痛輒顫多多腹ノ内雷ノ
コトクニ鳴モ、ク下氣本穴ニ火鍼シテ氣自通ス
○六十七問 四種脾寒肉ヒクメキ腰ヲノフレハセテ
カイタミ兩肋痛ンテレキリニ起卧スル也

歌曰 四種脾寒又腎ニ傳ウ身ヲ攢フルヒギノ、
ヒテ多クハ心禁スコレヲノヘ脊ヲヒイテ卧コトシキリ

也イタミ^{タシ}脇肋^{ワキ}ヲサス事カタナノ如シ^ハ鍼^シヲ本^ホ穴^{ツク}ニ下^タシテ便^スチイユ妙^ニ藥^ヲ三服^ニシテ氣^キ脉^{マツ}順^ス

○六十八問五種脾寒肉ヒクメキ雷^{イカシ}ノ如ク二十リ起^キ卧^シニ疼痛^{ツク}シテ慢^ビ草^ヲス可^ク治^ス之^ヲ

歌曰五種脾寒胃^イ口^コニ傳^ツウ肉ヒクメキテ腹^ハノ内カミナリノ如ニ^シ痛^ムトキ輓^{コシ}顛^シ之^ヲ精^{セイ}光^{クワウ}ヲ没^{ボツ}ス卧^シテ後^ノ頭^ヲ弯^{マゲ}テアタカ狗^{イヌ}ノ如シ風^{フウ}藥^{ヤク}胃^イヲアタメ腸^{チウ}中^{チウ}ヲ治^スス火^ヒ鍼^シル^レア^リ方^{ホウ}中^{チウ}ニ^ニミ^ヘタ^リ

○六十九問六種脾寒肉顛^ト噤^シ森^シ槽^{ソウ}頭^{トウ}引^ヒ鬚^{ヒゲ}貌^{カバ}悶^{モン}イタニテ腹^ハ中^{チウ}聲^{コエ}ヲナス

歌曰六種脾寒五臟^ゴニ傳^ツウ肉ヒクメキ噤^シ森^シレキ

リ二腹^ニハル腹^ハ中^{チウ}イタニテ貌^{カバ}モタユ更^{サテ}ニ逆^{サカ}氣^キ隔^{カク}上^{カウ}ヲ^シモ^シ隔^{カク}下^カノ毒^{ドク}熱^{ネツ}又^{マタ}來^キリツク^クコトニ是^{コト}妙^ニ手^テモ又^{マタ}何^ニヲ治^スセシ

○七十問七種脾寒遍^ヒ身^シ肉ヒクメキ逆^{サカ}氣^キ心^{シン}ヲ^シモ^シ可^ク治^ス之^ヲ

歌曰七種脾寒六腑^{ロク}ニ傳^ツウ逆^{サカ}氣^キ疼^イ痛^{ツク}心^{シン}ヲイタキ來^キル眼^メク口^コウシテ地^チニタラシ陌^{ハク}然^{ゼン}トシテイナノク唇^{シブ}口^コ青^{アヲ}ク黒^{クロ}クシテ冬^{トウ}凌^{レイ}ニ似^タリ片^ヘ時^{トキ}ニ身^ミ死^シレテ灰^{ハイ}土^トトナル

○七十一問八種脾寒二焦^ニ擁^{ヨウ}悶^{モン}シキリニ卧^ス用^ス藥^ヲ可^ク治^ス之^ヲ也

歌曰八種脾寒胃間ニツタウニ焦ノ逆氣カチ
艱難令氣シ、カストキレキリニ地ニ卧ス五臟シイ
タンテ又ツ、ロサムシ要較火鍼十ニ道寒氣シ
ラハレテ便チ身ヤスシ

○七十二問九種脾寒八肉ヒクメキ毛焦シ腸中
吼聲亞身シキリニ尿リス用藥治之可也

歌曰九種脾寒大小腸腹中ノ冷氣ナルコトシ
キリナリ肉顫毛焦シ寒禁森亞身シキリニ尿リシ
テ淡金黃ノ如シ五擯ニ火鍼シテコ、ロヨキ事ヲ
得ヘシ六腑ヲ温和シテ便チヤスシ

○七十二問十種脾寒肉顫拳攣シテ水ヲハクコ

ト多シ可治之

歌曰十種ノ病脾寒ト號スヲコルトキ肉頭怎拳
攣腹ノ内不和シテ下氣シテナル口中ノ痰水冷
ツラナル更ニ火鍼ヲ用テ四道ニハリス是スヘカラク
トコシナヘニ木香丸ヲカウヘシ

○七十四問猝然トシテ泄瀉困水宿草腸中ニ至
サマラス冷熱相モ内ニ痛ヲ生シ時時クタル也
歌曰急水急草熱上リ來ル病ト成テ腸中雷ノ
ナルカ如シ蕩來痛ムコト刀ノサクカ如シ腹ノ内不
和シテ寒熱ハナハタレ、キリニ逆氣又シタカツテキ
タル百會ニ火鍼シテ溫藥ヲ用ユ萬病消除レテ

尤妙也

○七十五問冷熱不定レテ又脾胃ニツタウ疼痛
ヤキフレニ腹ナルコト雷ノ如シ用藥可治之

歌曰氣疼起卧ニメクツテ腰ヲノフ右左カハリミ
テ地ヲフニツク腹中イタシテ雷ノナルカ如シ
到リミレハ時々後脚アク當歸芍藥ヨクイタミツヤ
ム木香酒下アハセテ相調フ細辛橘皮香白芷
此タクヒ好藥功勞アリ

○七十六問冷ニヨツテヤフル内腎コレモ、カチ
ク起卧レカタシ可治之

歌曰攝患腎冷氣腰ヲカ、ム腎家ノ冷病消ス

ルコトアタハス卧テ後ヲキ難クシテ氣力ナシ行トキ
脚ヲスツテ更ニ腰ヲヒク百會八竅鍼烙スヘシ腰
ヲ温メ腎ヲアタ、メテ切ニヨクト、ノ少先放交ハ
マサニ脊骨ヲカムヘシ半月ニ不遇シテ病除消ス
○七十七問ヤセヨハキハ毒氣水砂ヲノミツキテ肺
中ニ入ル可治之

歌曰毒氣ノ砂石肺腸ニ入ル消滌スルコトアタ
ハス腹中ニカクル草運シテチカラナク身流ニ重シ
朝々眼ヲ合シテ頭タシ定マル少却テ精神イテヤ
嘗ルヘカラス鍼烙切ニスヘカラク先治スヘシ日々
ニ深シテ必命無常

○七十八問傳肢肺病ハ困窮急汗出クルシム中
上槽ニラサキ草砂土雞ノ糞臍腹ニ消セス化セ
ス可治之

歌曰搖患傳肢困餒イワカハシ臭草ノ毒氣臍
中ヲヤフル初メテ得外傳ヘテ脚ニ和シテ痛ム知
ラス早ク外邊ノ相ニ至ルコトヲ四脚傳來頭項
カタル喉ホ子高大ニ鼻膿將ル慢草シテフシカタク
行コトチカラナシ要較鍼鑿聖効方

○七十九問項松把腰頭タシテ難シ汗出テ、拍着ス
ルシ汗出賊風拍着スウナレコハリテ卧シカタク
脚兼シ

歌曰項松把腰頭タシテ難シ汗出テ、拍着ス
皮膚ノ間ニナ行急ニ依テ五臟ヲヤフル漸クニヤ
ヒ勞シテ刃ニテサクカ如シ筋骨硬ク時ニ地ニ卧
難シ後脚兼時痛ニ無偏ハヤク良醫ニアフテ必
イユヘシ人知ラス却テミタリニ傳ウ

○八十問胎駒病有ハ母卧テ四蹄遭ス咽ヲイケ
ツミ尿溢ル者ハ靴ヲ破ニヨル藥ヲ用テ是ヲ治ス
歌曰胎駒病アルハ尤醫シ難シ母卧シテ努咽
四蹄ヲ遭ラス子病ニ母疼ニテ敢テ靴ヒス頭々ニ
尿溢テ下ル裏遲シ安藥子腸無惡物犯時水
道血衣タル敢テ一般ヲトリテ端的シレバ二日

假名安驥集卷第一終

連夜高低ヲ辨ス ○八十一問駒子姪結
 ハ腸中ノ擁毒熱結定氣腹脹疼痛コラヘ難シ
 藥ヲ用テ是ヲ治ス 歌曰駒子姪結又醫シ
 難シ腹脹テ起卧是危シ滑石油蜜同ク臍粉
 嚙ヒスル時子細ニ心機ヲ用ヨ玄妙鼠藥筆ノチ
 クノ内温水同ク用テ穀道二服之違カイ行ク事
 三二下里氣道ヲ通關シテ病下方ニ移ル
 元是師皇安驥集 今交假字刊成之
 靈方一一多神效 醫得龍孫龍子奇
 道派叟謹書

假名安驥集卷第二

○五輪碎

甲乙ニハ肝ノ臟ヨリ病發ス腑ハ膽ノ腑ナリ藥ニハ
 酸キ物ヲ本味トシテ鹹キ物苦キ物此三ツヲ飼
 ヘシ甘キモノ辛キモノ酸味ナリ口傳アリ
 丙丁ニハ心ノ臟ヨリ病發ス腑ハ小腸ナリ藥ニハ苦
 キ物ヲ本味トシテ甘キモノ酸キ物此三ツヲ嚙ヘ
 シ辛キ物鹹キ物酸味ナリ
 戊巳ニハ脾ノ臟ヨリ病發ス腑ハ胃ノ腑ナリ藥ニハ
 甘キ物ヲ本味トシテ苦キモノ辛キモノ此三ツヲ
 嚙ヘシ鹹キモノ酸キモノ酸味ナリ

庚辛ニハ肺ノ臟ヨリ病發ス府ハ大腸ナリ藥ニハ
 辛キ物ヲ本味トシテ甘キモノ醜キモノ此ニツラ
 啗ヘシ酸キモノ苦キモノ酸味ナリ
 壬癸ニハ腎ノ藏ヨリ病發ス府ハ膀胱ナリ藥ニハ
 醜キ物ヲ本味トシテ辛キモノ酸キモノ此ニツラ
 啗ヘシ苦キモノ甘キモノ酸味ナリ

○馬ノ其性ニ依テ其性ノ日病ヒラ得ル則ンハ惡
 シ壁ハ

春三月ハ	甲乙ノ日	木性ノ馬
夏三月ハ	丙丁ノ日	火性ノ馬
土用ニハ	戊巳ノ日	土性ノ馬

秋三月ハ	庚辛ノ日	金性ノ馬
冬三月ハ	壬癸ノ日	水性ノ馬

○馬ノ定業日

正月寅ノ日寅ノ時	二月巳ノ日巳ノ時
三月未ノ日未ノ時	四月午ノ日午ノ時
五月申ノ日申ノ時	六月子ノ日子ノ時
七月亥ノ日亥ノ時	八月亥ノ日亥ノ時
九月戌ノ日戌ノ時	十月辰ノ日辰ノ時
十一月申ノ日申ノ時	十二月卯ノ日卯ノ時

又

正月庚寅 二月辛未 三月巳巳

四月戊午

五月甲申

六月丙戌

七月丁未

八月戊寅

九月壬申

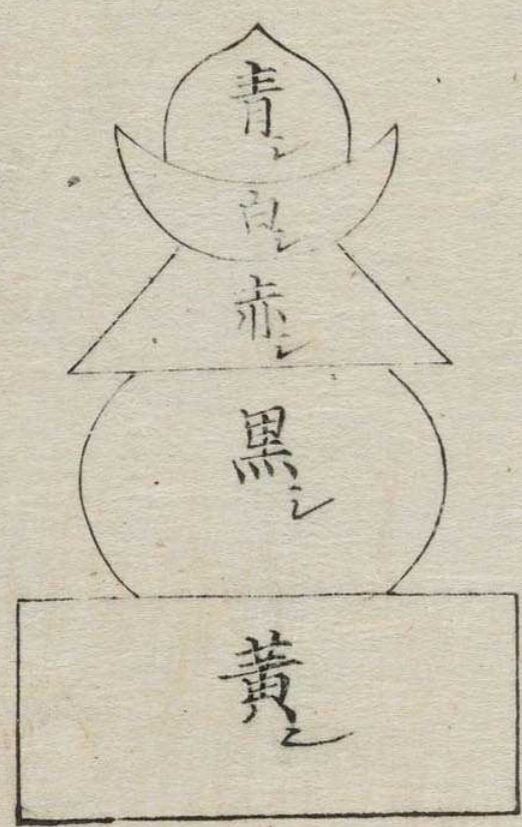
十月癸酉

十一月丙寅

十二月己亥

右ノ日始テ病ヒラ得ル則ニハ必ス死ス

春 秋 夏 冬 土 用

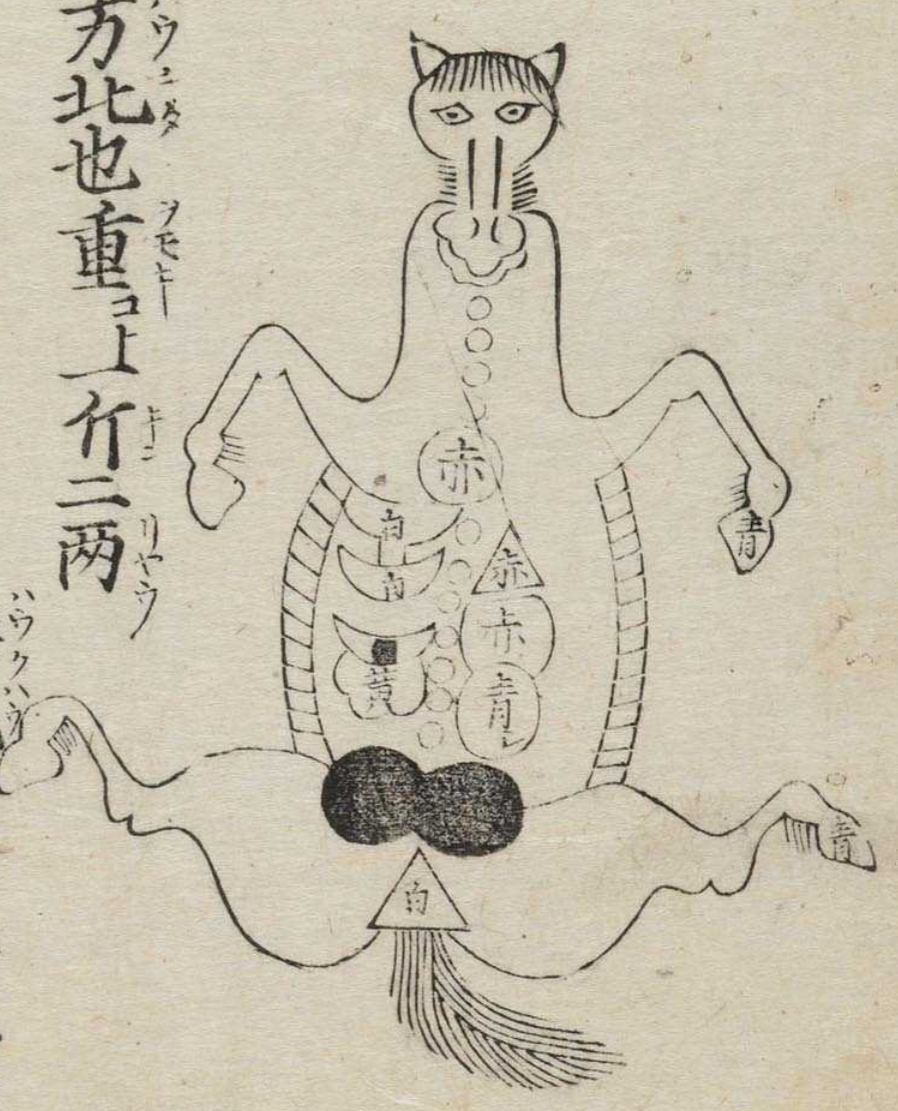


空 風 火 水 地

腎臟方北也重キニ上キニ斤二兩

肝臟方東重カニ下カニ斤十二兩

膀胱重ハウクハシ下ハウクハシ斤二兩也



心臟方南重シハサウ下シハサウ斤八兩也

小腸目廿二三大小三



肺臟方西也重コト二斤四兩也



胃腑重コト夏不定
但本長ニ三斤六兩也

格イタ于一斤十兩

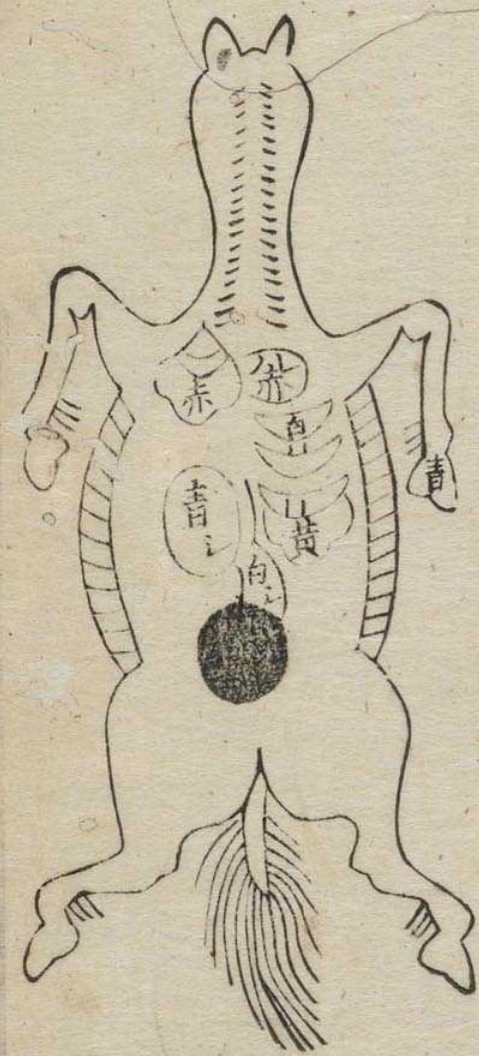
脾臟方中央重コト夏一斤十兩也

肝臟春旺左賦味酸此藏通膽藏腑共體木也通眼筋爪

心臟夏旺左賦味苦此藏通小腸藏腑共體

火也通舌血毛

脾臟土用旺右賦味甘此藏通胃腑藏腑共體土也通唇肉乳



肺臟秋旺右賦味辛此藏通大腸藏腑共體

金也通鼻皮息

腎藏冬旺左賦味鹹此藏通膀胱藏腑共躰

水也通耳骨齒

春三月肝藏旺スルコト七十二日也初十五日

ハ冬三分加ウ末十五日ハ夏三分加ウ然ルヲ

以テ四十餘个日也然トイヘトモ初十日ハ冬

一分殘ル末十日ハ夏一分來ル中旬二十日

ト知ヘシ

夏三月心藏旺スルコト七十二日也初十五日

ハ春三分加ウ末十五日ハ土用二分加ウ中

四十二日也然リトイヘトモ初十日ハ春一分

ノコル末十日ハ一分來ル中旬二十日知ヘシ

土用脾藏旺スルコト七十二日也初十五日ハ夏

三分加ウ末十五日ハ秋三分加ウ中四十二

日也然リトイヘトモ十日ハ夏一分ノコル末十

日ハ秋一分來ル中旬二十日ト知ヘシ

秋三月肺藏旺スルコト七十二日也初十五日

ハ土用二分加ウ末十五日ハ冬二分加ウ中

四十二日也然リトイヘトモ末十日ハ冬一分

來ル中旬三十日ト知ヘシ

冬三月腎藏旺スルコト七十二日也初十五日ハ

秋三分加少末十五日八春三分加少中四十
二日也 然リトイヘトモ初十日ハ秋一分ノ丸
末十日ハ春一分來ル中旬二十日ト知ヘシ

肝木膽府眼筋爪

心火小腸舌血毛

脾土胃府唇肉乳

肺金大腸鼻皮息

腎水膀胱耳骨齒

木體青色東圓形

火體赤色南三角

土體黃色中四角

金體白色西半月

水體黑色北圓形

左心小腸肝膽腎膀胱

右肺大腸脾胃命門三焦

前面二六門アリ後面二四門アリ門々相對ニテ

馬二一五十九道アリ明穴并ニアルコト一

八十道白鍼一百八十道火鍼ノ内ニ各ノ去

トコロアリ夫レ鍼スル則ニハ害ナシ補鍼ニ義アリ

若ヤ、一絲ヲ偏ニハ鍼セザランニハカレ上機中

穢下穢アリ上穢ハ是レ左ノ譚脈中穢ハコレ帶

脈下穢ハコレ腎脈也穢ハ汚トナル也汚ハ血ト

ナレ也馬ニ二堂六脈アリ三堂ト者一ニハ腎堂

二ニハ五堂三ニハ腎堂コレヲ三堂ト名ク六脈

ト八一ニハ耳根動セス二ニハ耳脈散セス三ニハ

口色惡カラス四ニハ舌色弱カラス五ニハ膈前ニ

七道アリ命懸絶セス六二、膈後二十七根アリ命
毛ソハタテス是ヲ六脉ト名ク肝ハ眼ヲ主トリ腎
ハ耳ヲ主トリ脾ハ唇ヲ主トリ肺ハ鼻ヲ主トリ心
ハ舌ヲ主トル眼耳唇鼻舌是ヲ外腎ト名ク肝肺
脾心是ヲ内腎ト名ク其外即チ其内ヲ知り内
外相應病ヲ認メ藥ヲ下サハ何ソイヘスト憂ル
コトアラシ大腸ハ江ノコトク小腸ハ海ノコトク頭
心肺腎ハ四海ノコトク頭ハ髓海トシ心ハ血海ト
シ肺ハ氣海トシ腎ハ水海トス血海ハ溝渠ノコト
シ大腸ハ長一丈二尺一年十二个月ヲカタトル
小腸長二丈四尺一年二十四氣ヲ按ス呼テ

内ノ一死トス四蹄ニ八字アリ四八三十二馬
頭ノ高サハ尺ナリ今節ノコトク呼テ外ノ一死ト
ス夫シ馬ハ是四足トイヘトモ亦陰陽シウケテ生
シ灰臺ノ下ニ生ス龍天池ノ水ヲ飲シ遂ニ生シ
テ馬ヲ得ル馬ノ祖ニ亦父母アリ父ヲ強ト名
ケ母ヲ弱ト名ク弱女女子ヲ生ス女子生シテ
飛兔ヲ得ル飛兔生シテ麒麟ヲ得ル麒麟生シテ
馬ヲ得ル馬生シテ騾ヲ得ル凡ソ馬ニ三百
六十骨節有リ亦タ三百六十穴アリ馬ニ二十
萬二千一百一十經アリ病ヲ毛竅ニウク馬ニ
亦三斗六升ノ血アリ出ルイキヲ喘トシ入ルイキ

ヲ息トス馬ニ病ヒナキカ如キ六一日一夜二三
萬六千一百度ノ喘息アリ馬ニ病ヒアルカ如キ
六一日一夜二三萬六千一百三十五度ノ
喘息アリ馬ニ六腑アリ膽ヲ清淨ノ腑トナシ大
腸ヲ傳送ノ腑トナシ胃ヲ草穀ノ腑トナシ小腸
ヲ受盛ノ腑トナシ膀胱ヲ津液ノ腑トナシ三焦ヲ
申ノ府トナス夫馬ヲ醫スル者ハ須ラク病源ヲ知
リ其根本ヲ察シ筋脉ヤシツマヒラカニシ其喘息
ヲ聽テ便チ生死ヲ知ルヘシ春三個月ハ一日一
夜ニ血脉流轉スルコト二百四十遭夏三個月
一日一夜ニ血脉流轉スルコト二百八十一遭

秋三箇月ハ一日一夜ニ血脉流轉スルコト一
百二十遭冬三箇月ハ一日一夜ニ血脉流轉
スルコト六十遭春三箇月ハ肝旺シ夏三箇月
ハ心旺シ秋三箇月ハ肺旺シ冬三個月ハ腎旺
ス肝ハ東方甲乙ノ木ニ屬シ心ハ南方丙丁ノ
火ニ屬シ肺ハ西方庚辛ノ金ニ屬シ腎ハ北方
壬癸ノ水ニ屬シ脾ハ中央戊己ノ土ニ屬ス春
三箇月ハ肝旺スルコト七十二日夏三箇月ハ
心旺スルコト七十二日秋三箇月肺旺スルコ
ト七十二日冬三個月腎旺スルコト七十二日
彈ハ正形ナシ旺スルコト四季ノ内ニアリ各旺ス

ルコト一十八日馬ニ四百八病アリ内ニ四病
 見ヘス春一百一病ヲ管シ夏一百一病ヲ管シ
 秋一百一病ヲ管シ冬一百一病ヲ管ス内ニ四
 病アリ見ヘストイッハ口中ニ鐵ヲフクニ背
 上ニ鞍ヲカケ兩邊ニ鐙ヲタレ今ノ人馬ニ乘
 騎ス若シ病ヒアラハ須ク是ノ病ヒニ應
 シテ藥ヲ下スヘシ

○口色形候 無病即四季口色皆紅

春季ニ口中青キハ病ヒ肝ニアリ治シカ
 タキ也若シ變シテ黒キハ治スヘシ謂
 ユル水生木ナリ變シテ白キハ治スヘ
 カラス謂ユル金剋木也

夏季ニ口中赤キハ病ヒ心ニアリ治シ
 カタキ也若シ變シテ青キハ即チ治ス
 ヘシ謂ユル水生火ナリ變シテ黒キハ
 治スヘカラス謂ユル水剋火也

秋季ニ口中白キハ病ヒ肺ニアリ治シ
 カタキ也若シ變シテ黄ナルハ治スヘシ
 謂ユル土生金ナリ變シテ赤キハ治ス
 ヘカラス謂ユル火剋金也

冬季ニ口中黒キハ病ヒ腎ニアリ治シ
 カタキ也若シ變シテ白キハ即チ治ス
 ヘシ謂ユル金生水也變シテ黄ナルハ
 治スヘカラス謂ユル土剋水也

四季ノ下旬ニ口中黄ナルハ病ヒ脾
 ニアリ若シ變シテ赤キハ即チ治スヘシ
 謂ユル火生土也變シテ青キハ治スヘ
 カラス謂ユル木剋土也

變シテ青キハ即チ治スヘシ謂ユル水生
 火ナリ變シテ黒キハ治スヘカラス謂
 ユル水剋火也

秋季ニ口中白キハ病ヒ肺ニアリ治シ
 カタキ也若シ變シテ黄ナルハ治スヘシ
 謂ユル土生金ナリ變シテ赤キハ治ス
 ヘカラス謂ユル火剋金也

冬季ニ口中黒キハ病ヒ腎ニアリ治シ
 カタキ也若シ變シテ白キハ即チ治ス
 ヘシ謂ユル金生水也變シテ黄ナルハ
 治スヘカラス謂ユル土剋水也

四季ノ下旬ニ口中黄ナルハ病ヒ脾
 ニアリ若シ變シテ赤キハ即チ治スヘシ
 謂ユル火生土也變シテ青キハ治スヘ
 カラス謂ユル木剋土也

○五勞

五勞ハ謂ユル筋勞骨勞皮勞氣勞血勞也

○筋勞ハ又レク歩ムニ因テ是ヲ得ル其ノカタチ終日驅馳放レテ驟セサルモノ是ナリ其レ病トナル則レハ發レテ蹄又痛ム氣ヲシノクノ病ト也

○骨勞ハ又ク立ニ因テコレヲ得ル其カタチ驟ストイヘトモ而モ時ナラスレテギルモノ是也其レ病トナル則レハ癰腫ヲ發ス

○皮勞ハ又レク汗レ乾カサルニ因テコレヲ得ル其カタチ驟ストイヘトモ起テ毛ヲフルハサル物ゴシナリ其病トナリテ脊ヲハサンテ是ヲ摩スルハ熱也

○氣勞ハ汗イマヤマサルニ乘リ乾カレテ飼飲ニ因テコレヲ得ル其カタチ毛ヲフルウトイヘトモ而モ即鼻フキセサルモノ是也其レ病トナリ苦ニテ氣宣通セス故ニ須ク緩クコレヲムシヤノ上ニツナクヘン餌草ヲトホサカレハ乃チハナヒル也

○血勞ハ驅馳時ナキニ因テコレヲ得ル其カタチ鼻フキストイヘトモ而モ即チ濁セサルモノ是也ソレ病ヒトナル則レハ強ヲ發シ行ク高クコレヲツナキ飲餌ヲ得スレハラクレテ乃チ大ニ溺スル也

○七傷

七傷ハ謂ユル寒傷熱傷水傷飢傷飽傷肥傷

走傷也

○寒傷ハ冷^レ胎^ニ宿^ス水ヲノ^マセテ寒^カ處^ニツナクニ因^ヨテ是ヲ得^ル其^ノ病^ハ馬ヲ^シテ毛^ヲ焦^レ塵^ヲウケ^シム是也

○熱傷ハ暑^ク月^ニ乘^リ騎^スルコト過^ク多^クニ^シテ時^ナラサ^ルニ飲^ム餵^スルニ因^テコ^レヲ得^ル其^ノ病^ハ馬ヲ^シテ煩^ク躁^シ悶^シ亂^セシム是也

○水傷ハノリ^ニワ^レテ便^チ飲^ム水^トノ^リ滯^ホリ散^セサルニ因^テ是ヲ得^ル其^ノ病^ハ馬ヲ^シテ水^ヲ腸^胃ニ結^シ積^聚シ^テ病^ヒトナル是也

○飢傷ハ馬サカ^ニニ飢^ヘ更^ニ大^イニ走^ラシメ喘^息イマタ^ニツマ^ラサルニ卒^然ト^シテ飲^ム餵^スルニ因^テコ^レヲ得^ル其^ノ病^ハ馬ヲ^シテ心^脾氣^結シ草^料消^セサ^ル是也

○飽傷ハ飽^テ乘^リ騎^シ而^モ便^チ飲^ム餵^キ草^太々^猛キニ因^テコ^レヲ得^ル其^ノ病^ハ馬ヲ^シテ腸^胃ニ積^聚セ^シメ糞^行遲^クシ^フル是也

○肥傷ハ馬臆^太力行^ニ因^テコ^レヲ得^ル走^傷ハ馬キハメ^テ走^ルコト太^々過^ルニ因^テコ^レヲ得^ルニツノモノハ皆^馬ヲ^シテ肉^斷シ脂^消シ氣^續サ^ラレムル也

○馬師皇ハ邪論

黄帝問テ曰ク夫シ馬ニハ邪ノ病ヒアリ遂ニ天
 地寒暑ヲ逐テ往來シ五臟傳遍シテ散ス其病
 形大小體ノカタキ皆イカン馬師皇答テ曰ク邪
 ノ病トハ風寒暑濕飢飽勞役是也即チ大小ト
 ナク五臟ニ遍ク傳ヘ四肢ヲアワセ攻ム其シ病ト
 ナラハ當ニ處ニシタカツテ攻ムヘキ也
 一曰風傷肺 皮毛ハ肺ノ合也風邪先ツ皮毛
 ニ客トシテ又シクシテ乃チ合スル處ニヤトル故ニ
 風肺ヲ傷ルト云ウ
 二曰寒傷脾 脾ハ土也濕ヲニクム寒濕ニナ陰
 氣ナスナリ故ニ寒脾ヲ傷ルト云ウ

三曰暑傷六腑 六腑ハ陽トス陽ハ上ニアリ暑ハ
 火氣ナリ火炎上ス故ニ暑六腑ヲ傷ルト云ウ
 四曰濕傷腎 濕ハ土ニ屬ス腎ハ水ニ屬ス土ハ
 水ヲ尅ス故ニ濕腎ヲ傷ルト云ウ
 五曰飢傷脂 脂ト肉トハ生ス凡ソ馬ハ水草
 是ル則ニハ肥テ脂ヲアリ水草タラサル則ニハヤセ
 テアフラナシ飢トハ謂ユル水草不足也故ニ脂傷
 ラル故ニ飢テ脂ヲ傷ルト云ウ
 六曰飽傷五臟 飽トハ謂ユル水草太タ過ルナリ
 水草スクル則ニハ腸胃傷ラル故ニ飽テ五臟ヲ傷
 ルト云ウ

七曰勞傷心 心ノ液ハ汗トナル勞スル則ハ汗イ
 テ、心液ヲ損ス故ニ勞シテ心ノ藏ヲ傷ルト云ウ
 八曰役傷肝 役トハ行役ナリ又シキ則ハ筋ヲ
 傷ル肝ハ筋ヲ主トル故ニ役シテ肝ヲ傷ルト云ウ
 然ルニ風寒暑濕ハ四時ノ病ヒ也外陽トス病ヲ
 受テハ陰藥ヲ與ヘテコレヲ服ス是陽ノ病ヒヲ治
 スルナリ飢飽勞役ハ一體ノ病ヒ也内陰トス病
 ヲウケテハ陽藥ヲ與ヘテ是ヲ服ス是陰ノ病ヒヲ
 治ス一日ハ皮膚太腸ニ病ヲ受ク二日ハ表胃
 ニ病ヲ受ク三日ハ血心ニ病ヲ受ク四日ハ藏
 府ニ傳ウ五日ハ諸臟ニ病ヲウク六日ハ三陰

三陽ニ病ヲウク七日ハ遍ク攻ム八日ハ亂シ攻
 ム九日ハ三損ス十日ハ病滿ス醫療時ヲ失ス
 此ハ是十種日ノ病也皮膚ハ六腑ノ上ニアリ
 テ陽也馬水穀ヲ食シ然シテ後カラヲナス水穀
 腹中ニアリテ化シテ氣血トナル氣血乃チ皮膚
 ニ行ク其糟粕ハ太小腸ニツタヘ與フ小腸ハ心
 ニ連ナル心ハ火ニ屬ス太腸ハ肺ニ合ス肺ハ金ニ
 屬ス肺ハ華蓋ニカタトル是五臟之蓋ナリ以テ
 太陽ニ屬スルナリ心ハ南方丙丁ノ火ニ屬ス以
 テ純陽ニ屬スル也内腎精ヲ隱シテ以テ太陽ニ
 屬ス肺ハ厥陰トス肺ハ太陰トス外ハ少陽トシテ

以テ宰トル也六日ハ三陰三陽唯厥陰ニ病ヲ
 ソ、キ内損シ真傷ル肝中ニ魂ヲ隠シ肺中ニ魄
 ヲ隠シ心内ニ神ヲ藏シ腎内ニ精ヲ藏ス三陰三
 陽皆病ヒヲウク七日ハ遍ク攻メ内外トモニ盡
 ク九日ハ三損ス其三焦ヲ損シ毛髮乾キ枯レ
 筋甲シタカハス行動カラナク牙齒ウコキウコク夫
 シ馬ノ出相トハ是馬五臟ノ神内ニ變シテ即チ
 病ヒアレハ外ニアラハル人コレヲ相スルトハ其外ヲ
 見テ以テ其内ヲ知ル是ヲ以テ凡ソ馬ニ病ヒ有
 ハ先ツ口色ヲ見ル晝ハ即チ其行歩ヲ見夜ハ即
 チ其喘息ヲ聽テ即チ病ノ源ヲ知ル然レテ後其
 逆順ヲ觀テ其吉凶ヲ定ムハ邪ニ因テ生セスト
 云ウコトナシ

○治一十六般蹄頭痛

乾漏痛第一

蹄ニ乾漏ヲ生スルハ本風ニヨル血脉衰へ時ニ
 膿ト變セス若シ泥ニヤフラレハミチ塞リテフクル、
 行ク時イタミシ覺へアユミ移ルコトモノウシ種刀ニ
 テサキ開ク多ハ眼竅藥ヲ以テ攻メ火ヲ以テ烙シ
 テ蹄中ヲツ、ム筋骨ヲシテ時ニ病ヒ多キコトヲ免
 シシム法ニ依テ行フ時自ラ功アリ

濕漏痛第二

痛極イタシキマルコト濕漏シツロニ過ルコトナシタ只毒氣ドクキ蹄ヒニツ
クニ因ヨル旬日シユツヲ經スシテ膿ウトナリテ後遂キツイニ蹄
ヲアチテ歩アユミヲウツスコトモツシ此病シヤクヒ常ツノ人多ク
シラス切セツニ須スカラクツマヒフカニ良醫リヤウイヲシテ削開セツニ
蹄中ヒチウノ毒ドクヲ出スヘシ立タチトコロニイヘテ奔走ホンソウシテ飛
カ如コトシ

蹄胎痛第三

蹄胎疼痛ヒチタイツウヨノツ子ナラス只血タチヲ出シテ鍼チニ傷ヤラ
ル、ニ因ヨル世人セカイジン蹄中ヒチウノ痛イタシキヲ辨ハセス到イル處トコロニ
醫イヲ求モトメテ更サラニガヲ檢ケンウ此病シヤクヒ全シツク療レセスハ
前程サキホト中路チウロニ實マコトニ防フセキ難カタクニ但タ藥法ヤクハフニ依ヨツテ勤キム

ニ埋コリ病ヒノ根源ネンヲ除カハ命イ自ミラ長カラシ

擘掌痛第四

血蹄頭ケツタイツニツ、キ擘掌痛ヒヤウツウム一回ヒトクワヒキ動カセハ刀カタ
ニテサクニ似ニタリ直ナニ須スク掌内テウチニ漿シヤウヲワ、キ洗アラシ
ヘシ藥ヤクヲ用ヨウヒテ瘡カサヲ治ス盲醫マウイニ見ミセシムルコトナ
カシ恐コソラクハ心シン肺フイヲ將ミタテ亂ミダリニ猜傳サウデンヘン更サラニ宜ヨシ
ク子コ細サイ分明メイメイニコ、ロムヘシ此法シヤク貼テウシテ便マシキ安ヤス
カルヘシ

護干痛第五

熱六腑ネツロクポニ生ナシニ掌テウノ中チウカハク纏マラ入イレハ驚オドロキク
ルヒテ自ミカラ安ヤスカラス是駿駒シユンクマニアラス心性シンセイ劣セウル故ユ

テ騎リ動カスニ因テ蹄ニ滿テイタム利刀ニテ浮
皮ヲサキ破リ藥潤ホヒテ能ク千里ヲ乗ル此ヨリ
便チ同シク善馬ニ馴ル世々人信セスハ但騎リ
テ看ヨ

土旋痛第六

良驥ノ蹄中土旋多クハレリ行ハツマツキ痛ミタ
ヘカタレ行時マサニ途中ノ暑ニ値フ山溪ヲ過キ
水ノフカキニ入り冷熱ヒトレカラスレテ旋裂ヲ生
ス藥填火烙シテ蹄心ヲツム旬日ヲ經スレテ新
甲ヲ生ス削見レハ元ニ依テ喜ヒ自ラ生ス

穿漏痛第七

馬穿漏ヲ患フ内ニ毒血ナク亦膿ナシ痛多クシ
テ漸ク筋脉ヲ傷ル長日聲ナクシテ廐ノ中ニ卧
ス但靈膏ヲ用ヒテ塗ルコト數上別ニ新甲ヲ生
シテ其功ヲ見ル更ニ黃藥ヲ將テ熨リニスリ又ル
ヘシ

蹄薄痛第八

本是生駒カタチ全カラス四蹄カロク薄クシテ痛
之備ナシ尺胎氣ニ因テ生スル時ヨハシ走リハシツ
テ只ウシウ硬キシフムコトヲ走リガクムハ砂磧ヲ過
ルカ如シ筭來騎ルモ亦牽クニシカス

水蹄痛第九

良驥イカントモナシ水蹄痛濕シフミ泥ニウルホヒ
軟カナルコト綿ニ似リ硬キ地ヲハレル時連蹠腫
ル砂石ヲ行クトキンハ刀ニテサクカ如シ但人髮
ヲ將テ灰末トナシ黄蠟松脂一處ニ煎ス淨ク四
蹄ヲ洗ヒテ此藥ヲ塗ルハモアラハアシ乘騎シ山
川ヲ過トモ

蹄裂痛第十

畜ニ天然性高キニイタルアリ群類ト共ニ槽ヲ
同シウスルコトシヨロコハス幾度モ跳リナケウ子甲
ヲ傷ルニ因テ數度咆哮シテ痛之自ラ遭シホトハ
シリテ四蹄ヲ損スカクノ如キノ狀ナ宜シク痛ミ

ヤメ蹄ヲ潤ルホス膏ヲ塗ルヘシ若シ遠テ掌ト蹄
ニ連ナリテ痛マハ鍼烙時ニノリテ藥ヲ用ヒテ消
セヨ

蹄隱痛第十一

水ヲ過キ途泥ヲフムニ因テ砂石カクシテ蹄ニマリ
而シテ後ニ入ルコト深クシテ人見ス却テ諸處ニ
シイテ良醫ヲモトム但トカリタル物ヲ以テ輕クカ
ケ出ス出シテ藥ヲ用ヒテ又シ此レヨリイタマス再ヒ
砂石ヲ經テコレヲ防ク

蹄口痛第十二

駿驥ヨリヨリ掌内イタム只多ク立ニ因テ人ノ乘

ルコトスクナシタチニ筋脉ヲ傷リ長路ニ行ク血蹄
中ニツ、ギ出ルコトアタハスハツ掌兩邊鐵スルコト
一刺更ニ黄藥ヲ將テ又ルコト二度腫毒自ラ消
シテ能クスコヤカニ歩ムケハニキ嶺高キ山自在ニ
行ク

疼蹄痛第十三

四蹄風甘カンニシテツ、キテ斑ヲナス連腕腫ル、
時尤モ痛ム此蹄ノ疼處去ルコトヤスニ先ツ鐵シ
テ血ヲ出シ後ニ藥ヲ又ル旬日ヲ不過シテ定メテ
安カラシ白痴ヲシリクケ盡シテ重子テキヨク洗フタ
トヒ十里ヲ行クトミ豈ニ難シトセンヤ

掌爛痛第十四

掌爛レ痛ム時亦憂ウヘシ血蹄中ニ滯リテ流ル
コトアタハス是ニ般輕キ病ヒトイヘトモ常ノ人
イカテカ知リワキアヘン本硬キヲフムニ因テ連胎ヲ
換ス烙シテコレヲ醫スルハ疾ヒ便キイユ

子骨痛第十五

子骨蹄ニ連ナリテ痛ム心ニ徹ス愚人ハサトラス
何ントシテ尋子タチニ只ケハシキ經ヲ經ルニ因テ骨縫
開ク時敗血ヲカス微燒烙鐵カルカルレク熨セヨ
蹄門ヨリ血ヲ出ス深クスルコトナカル仍テ妙藥
ヲ將テ方ニ依テ使ヘ

掌蹄痛第十六

馬遠キニ行クニ因ニ太タヨハリ更ニ人ニノラレテ
浪沙ヲ過クケツマツキテ掌蹄骨ニ連ナリテ痛ム
十日或ハ半月尚スクミスクム其中毒血出ルト
入トモ藥ヲ以テコレヲ裹ヌハ疼ミナクシテ筋骨
スゴヤカナリ



○岐伯馬瘡腫病源論

黃帝岐伯ニ問テ曰ク五臟六腑ノ邪熱毒何シモ
ツテカコレヲ知ン岐伯答テ曰ク榮衛サラニ經脈
ノ中ニ稽留シ久シキ則ンハシフリテユカス便ナ胃
ノ氣コレニシテカツテ通セス壅滯シテ行コトアタハ

サレハ火氣止マズ熱盛ナル則ンハ肉マサニ膿ト
ナルヘシ然シテ化シテ皮膚ニイルコトアタハ骨髓
ニ於テ焦枯ヲナス五臟六腑故ニ毒ヲナス也

黃帝岐伯ニ問テ曰ク何シカ顯毒トス岐伯答テ曰
ク熱氣浮ミ其筋骨肉ニ當テ餘リナシ故ニ毒瘡
トナル上皮層ウスクシテ紙ノ如ク已ニ堅マリテ裏
ニ腫毒ヲナス氣ハ經絡ニシタカツテ行ク壅注シテ
膿ヲナス也

黃帝又岐伯ニ問テ曰クナニニ説ク處ニ及ンテイマ
タ其子細シラス瘡腫スヘテ幾クシナカアル岐伯
答テ曰ク腫テ頭ナキセノアリ是レ熱氣ノ毒其膿

血ア儿モノハ是心毒腫硬之テ石ノ如クナルハ是
陰毒眼下ノ瓜瘡アルハ是肝毒鼻内ニアルハ是
肺毒口内ニ瘡ヲ發スルハ是心毒蹠蹠發之テ
ア儿ハ筋毒漏蹄瘡アルハ是腎毒乾漏ナルハ是
血毒唇上ニ瘡アルハ是脾毒此ハ是十毒ノカク
千也

假名安驥集卷第二終

